

家庭科教育における日本文化理解のための教材検討

— 組紐を活用したバッグ製作の提案 —

長 尾 順 子

A Study on Materials for Understanding of Japanese Culture in Home Economics Courses

— A Proposal for Creating Bags Using Braided String —

Yoriko NAGAO

Abstract

In response to MEXT's policy to incorporate Japanese tradition and culture in home economics education, this paper focuses on braids that are central to traditional Japanese craft, and provides a recipe for creating bags using braids.

Targeting female college students in Hokkaido, a recipe was made by practicing and studying for a total of 4 times over 2 years. This enables us to learn about Japanese traditions and culture through experience and practice making bags that can be used in daily life. This recipe is one that can be expected to be used not only in middle and high school home economics classes but also in practical trainings at university and junior colleges that have established life sciences departments.

1. はじめに

昨今の加速する国際競争を背景に、文部科学省が家庭科教育に日本の伝統や文化を尊重する態度を育てることを求めているから、およそ 10 年が経過した¹⁾。現行の家庭科の教科書 16 冊を整理すると、日本の伝統や文化に関する学びは、きものや浴衣などに代表される和服の平面構成に関する記述が最も多く、ついで日本の伝統工芸に位置付けられる染織品に関しての内容が数点みられる (表 1)。

しかしながら、これら学習内容を実際の授業で取り扱うには、いくつかの課題が浮かび上がってくる。まず、現状の日常生活においては和服や伝統工芸品に触れる機会も少なくなり、生徒にこれらを理解してもらうには、何かしらの工夫が必要であるということである。次に、この問題を解決するために、実物資料を用意するなどの対応策が挙げられるが、収集するにしても、これらは往々にして高額であるため、予算がつかない場合は教員の負担が大きく、実現にはハードルが高い。

こうした課題を受けてか、この日本の伝統や文化に関する学びについて授業方法を示唆するもの、教材を提案するといった先行研究が、今なされつつある。これは衣領域のみならず、食²⁾・住³⁾・家族⁴⁾⁵⁾領域においても同様であるが、とりわけ衣領域では、教科書の学習内容に沿った和服や染織品に関する授業方法を提案した報告がみられる⁶⁾⁷⁾⁸⁾。

所属 :

藤女子大学人間生活学部人間生活学科

Department of Human Life Science, Faculty of Human Life Science, Fuji Women's University

表1 家庭総合・家庭基礎の教科書における「伝統と文化」に関する学習内容
(いずれも平成24年検定済教科書)

番号	出版社	家庭総合／ 家庭基礎	教科書名	「伝統と文化」に関する学習内容
301	東京書籍	家庭総合	家庭総合 自立・共生・創造	<ul style="list-style-type: none"> ・平面構成について ・はっぴ（製作） ・文様や家紋について ・通過儀礼 ・染めと織り ・染織工芸品 ・刺し子と裂き織り ・着物の畳み方 ・浴衣の着装の仕方 ・江戸小紋師の紹介
302	教育図書	家庭総合	家庭総合 ともに生きる 明日をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・平面構成について ・民族衣装 ・和服 ・染め・織り ・風呂敷でかんたんバッグ（製作）
303	実教出版	家庭総合	家庭総合 パートナーシップでつくる未来	<ul style="list-style-type: none"> ・平面構成について ・じんべい（製作） ・布ぞうり（製作）、
304	開隆堂	家庭総合	家庭総合 明日の生活を築く	<ul style="list-style-type: none"> ・浴衣の着方 ・平面構成について ・はんてん（製作） ・衣生活の文化（日本服装史、藍染め、刺し子、裂織の紹介、和服の再利用）
305	大修館書店	家庭総合	家庭総合 豊かな生活をともにつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・平面構成について ・伝統織物、裂き織り・裂き編みの紹介
306	第一学習社	家庭総合	家庭総合 ともに生きる・未来をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・紅型衣装（写真） ・衣文化の伝承と創造（和服） ・ふろしきと手ぬぐい ・平面構成について ・和服について ・染めと織り ・乳幼児の甚平（製作） ・津軽こぎん刺し ・刺し子（製作）
301	東京書籍	家庭基礎	家庭基礎 自立・共生・創造	<ul style="list-style-type: none"> ・着物のエコリサイクル ・文様や家紋の例 ・着物の畳み方 ・江戸小紋師の特集
302	教育図書	家庭基礎	家庭基礎 ともに生きる明日をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・裂織の紹介 ・平面構成について
303	教育図書	家庭基礎	最新 家庭基礎 生活を科学する	なし
304	実教出版	家庭基礎	家庭基礎 パートナーシップでつくる未来	・寛衣形の衣服としての日本の和服
305	実教出版	家庭基礎	家庭基礎 21	・和服の構成（平面構成）
306	実教出版	家庭基礎	図説 家庭基礎	なし
307	開隆堂	家庭基礎	家庭基礎 明日の生活を築く	なし
308	大修館書店	家庭基礎	家庭基礎 豊かな生活をともにつくる	・刺し子、裂き織り、伝統織物、裂き編みの紹介
309	大修館書店	家庭基礎	未来を拓く 高校家庭基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の循環型生活 ・伝統織物、裂き織り・裂き編みの紹介
310	第一学習社	家庭基礎	高等学校 家庭基礎 ともに生きる・未来をつくる	なし

出典）長尾順子：「家庭科教育における衣文化理解に関する授業方法の提案：きもののペーパーひな形を学習者にどのように作らせるか」『藤女子大学人間生活学部紀要』、(55)、p25より転載

ところで、教科書に記載のある染織品に着目を見ると、染織品とは「工芸」に区分され、いわゆる日用品として位置づけられるものである。いまいちど家庭科の教科書の学習内容（表1）に戻ると、日用品としての伝統・文化を学ぶ内容があまりないことに気が付く。日常的に関わりのない事を授業でとりあげた場合、果たして生徒たちにその学びは定着するのだろうか。筆者も前稿⁹⁾において平面構成の学びについて提案をしたが、実践に関わった学生たちが1年後に和裁の授業を受講した際、平面構成の構造を覚えている学生がひとりもいなかったことがあった。これは学生たちの日常生活が和服とあまり関わりがないため、学びが定着しなかったことが要因のひとつとして考えられる。

以上のように、学びを定着させたいのであれば、日常生活で接する頻度の高いものを授業でとりあげると、より学習効果が高まり、日本の伝統や文化について実感をもって生徒たちに受容されるものと考ええる。そこで本論では、この日本の伝統や文化に関する学びについて、衣領域の立場から、日常生活に活用できる教材として、日本の伝統工芸品に位置付けられる組紐を持ち手としたバッグ製作を提案したい。北海道の女子大生を対象に、2年間にわたり、計4回の実践と検討を重ねてレシピを作成したので報告する。

2. 組紐を持ち手としたバッグ製作

(1) 組紐について

組紐とは、日本伝統の工芸品のひとつに位置付けられ、数十本の糸を一定の方式で交互に交差させて組みあげた紐のことをいう。編み物や織物と同じくテキスタイル技術の一種で組物に分類され、文化庁によると染織品に区分されている¹⁰⁾。組紐を授業で取り扱うことで、以下の6つの利点があると考ええる。

- ①日本の伝統工芸品に位置付けられている。
- ②過去・現在・未来を網羅している。(歴史の視点からも学習が可能)
- ③外国人の認知度も高まりつつある。(2016年公開アニメ映画『君の名は。』の影響による)
- ④多分野で活用され、日常生活にあふれている。
- ⑤材料の入手が容易である。(手芸程度の場合)
- ⑥家庭科の教科書には未収録である。(2018年10月現在)(表1)

組紐製作に関しては、伝統的な組紐の技法である「八つ金剛組」を用いた。組み方は、この分野の第一人者である多田牧子氏のご著書を参照した¹¹⁾。

(2) バッグ製作実践結果

本実践は、90分の授業時間のうち、受講生全員が組紐を持ち手としたバッグ作りを終えることを目標とした。以下に2016年～2017年にかけて実践と検討を繰り返した結果と製作したレシピを2点示す。組紐製作は、いずれも15分程度で手順を示し、家庭での宿題として2本製作してもらった。

① 2016年度「人間生活学基礎演習」

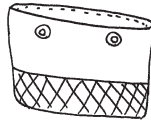
藤女子大学が開講するゼミ演習である。2016年度は3年生が6名おり、組紐を持ち手としたバッグ製作を、ゼロスタートで試みた。組紐製作には中細の毛糸を用いた。

結果、バッグ製作に関して、学生たちの作業進度にばらつきがみられたことと、口頭での説明では理解するのが困難であるとの意見が出たため、工程表(レシピ)制作をすることとした。

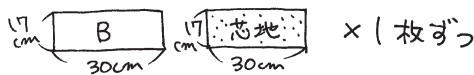
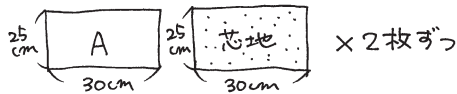
② 2017年度「被服構成学実習A」(洋裁)

藤女子大学が開講する被服構成の実習科目である。2017年は2年生33名の受講生を対象とした。組紐は上記(1)と同様の材料を用いた。バッグ製作に関しては、前回の振り返りのもと制作したレシピ(図1)を配布し、手順を理解してもらった上で、各自で製作にとりかかってもらった。

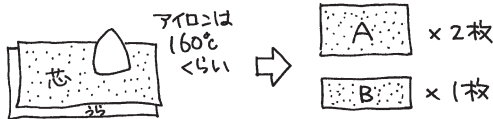
マチ付 わんたんバッグの 作り方 by ななみ



① 生地と芯地を用意します。

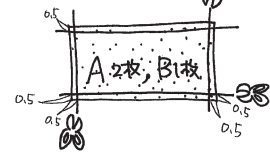


② AとBの裏に芯地をはる。

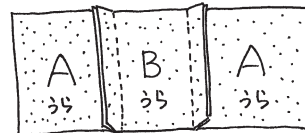


-1-

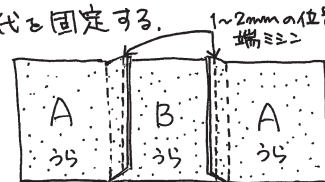
③ 端を各々0.5cm カットする。



④ ③のように生地を縫いあわせる。縫い代は1cm。
ミシンの糸は実習で残ったものを使用する。

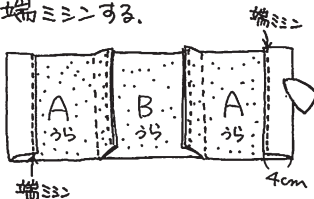


⑤ 縫い代をBにたおして、端ミシンをかけて、
縫い代を固定する。

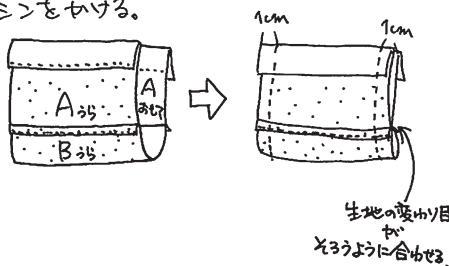


-2-

⑥ Aの端をそれぞれ4cmに山折し、アイロンを
かけて端ミシンする。

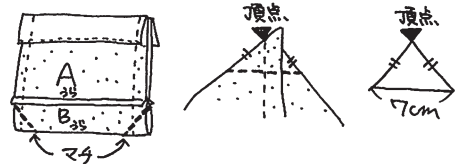


⑦ 表を中にし、2つ折りにしたら、縫い代1cmで
ミシンをかける。



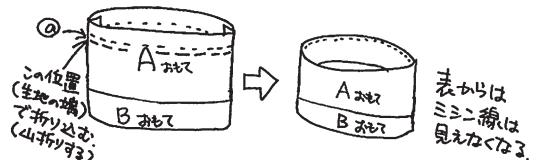
-3-

⑧ バッグの底に7cmのマチをつける。



⑨ 表にかえす。

⑩ ⑧のミシン線より少し下側の位置
(生地の間)で内側に折り込む。



あとはハトメをとりつけて

完成

-4-

図1 組紐を持ち手としたバッグの作り方 (小)

＊マチ付&組紐持ち手バッグの作り方＊

2018 by Y. Nagao



【材料】

1. バッグ

＊表布・裏布・接着芯：90×40

＊ハトメ：＃30×4

2. 組紐（持ち手）

＊Tシャツヤーン：10m×4本

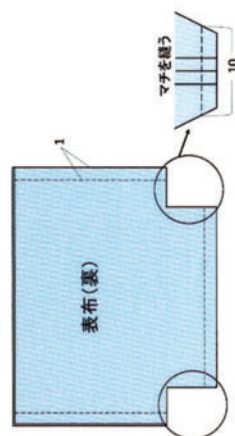
単位：指定以外 cm

【作り方】

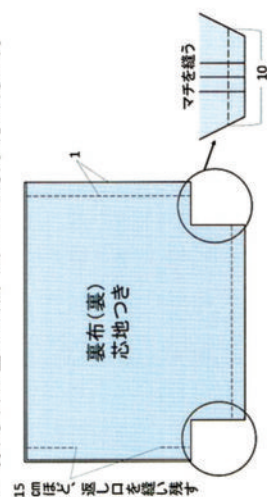
1. 下図を参考に製図し、布を裁断する。※裏布に接着芯を貼る。



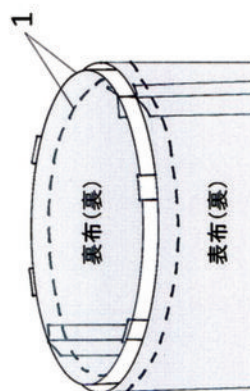
2. 表布を中表に重ねて両脇、底、マチを縫う。縫い代をわる。



3. 裏布を中表に重ねて両脇、底、マチを縫う。縫い代をわる。

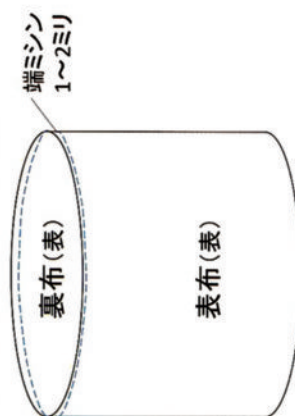


4. 表布と裏布を中表に入れ込み、口を縫い合わせる。

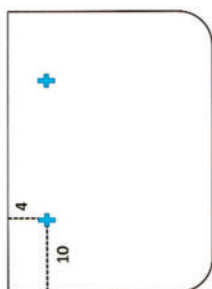


5. 返し口から表に返し、返し口を縫いとじる。

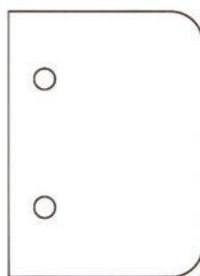
6. バッグの口全体に押さえミシンをかける。



7. ハトメ取り付け位置（計4箇所）に印をつけ、穴あけポンチで穴をあける。



8. ハトメをとりつける。



9. 組紐を2本、好みの長さに組む。

10. 組紐を取り付けて、完成。

紐の先をバッグの内側に入れて取り付けてもよい。



図2 組紐を持ち手としたバッグの作り方（大）

結果、ほぼ全員が 90 分程度でバッグを作り終えることができたが、レシピが手書きで分かりづらかったという意見が出たこと、そして出来上がったバッグのサイズが一部の学生にとって実用向きではないと判断されたため、何に使えるのかわからないという指摘を受けた。図 1 のバッグは出来上がり寸法が約幅 25 cm×高さ 18 cm であり、学生の中にはペットの散歩用にできる、小物入れにできるとの肯定的な意見もみられたが、実用的なバッグの製作を目的としていたため、サイズの変更を試みてレシピの書き換えをおこなった。

③ 2017 年度「人間生活学基礎演習」

藤女子大学が開講するゼミ演習である。2017 年度は 3 年生が 10 名おり、書き換えたレシピ（図 2）をもとにバッグ製作を実行してもらった。レシピは前回の反省を踏まえ、可能な限りパソコンを用いて制作した。バッグのサイズは市販のトートバッグサイズとし、出来上がり寸法を約幅 40 cm×高さ 30 cm とした。これにより A4 ファイルが十分に収納できる実用性のある大きさとなった。さらにバッグのサイズが大きくなったことを受け、中細の毛糸で組んだ組紐ではバッグの重さを支えきれないため、組紐製作には手芸用品店で販売される「T シャツヤーン」（商品によってはズパゲッティという品名で店頭に並んでいる。）を用いた。

結果、②と同様にバッグ製作に関しては学生たちの作業進度にばらつきがみられたが、作業に滞りは見られず、各自でバッグを仕上げることができた。日常的に使用するか、との問いに関して、10 名全員が通学用に使用できる作品となったと回答した。

④ 2018 年度「被服構成学実習 A」（洋裁）

③の結果を踏まえ、同様の方法でおよそ 3 倍の人数である 2 年生 28 名の受講生を対象とした藤女子大学が開講する被服構成の実習科目において、バッグ製作をおこなった。結果、バッグ製作に関しては 120 分程度で全員が作り終えることができたことで、レシピの完成とした。

3. おわりに

本稿は、日本の伝統工芸品に位置付けられる組紐を持ち手としたバッグ製作のレシピを、北海道の女子大生を対象に、2 年間にわたり計 4 回の実践と検討を重ねて作成し、報告した。これにより実習を通して日本の伝統と文化について学ぶことができ、かつ日常的に活用できるバッグという実物資料が学習者の手元に残ることが可能となった。このレシピは中学校・高等学校の家庭科の授業だけではなく、生活学系の学科を設置している大学・短期大学の実習においても活用が見込めるものとなったと考える。

今後も日本の伝統と文化に関する授業内容や実践方法を、家庭科衣領域の立場から検討し、提案していきたい。

引用文献

- 1) 平成 18 年 12 月公布の教育基本法の前文に、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進することが示された。様々な教科において「伝統と文化」を重視した学校教育が図られた。この教育基本法の改訂を受け、平成 20 年 3 月の学習指導要領の告示において、「伝統や文化に関する教育の充実」が教育内容に関する主な改善事項として挙げられた。
- 2) 石丸千代、速水多佳子「和食を継承する力を育む授業開発」『日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集』61(0), 63, 2018.
- 3) 池下香、妹尾理子「住文化への関心・理解を深める中学校家庭科の授業開発：主体的・対話的で深い学びへの試み」『日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集』61(0), 35, 2018.
- 4) 齋藤美重子、望月一枝、大本久美子、松岡依里子、川村めぐみ「グローバル社会と家族」のカリキュラム開発の検討：家庭科「家族」の授業構想」『日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集』58(0), 16, 2015.

- 5) 齋藤美重子, 望月一枝, 川村めぐみ, 松岡依里子, 大本久美子「グローバル社会に対応した高等学校「家族」の授業デザインと資質・能力」『日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集』59(0), 40, 2016.
- 6) 柴静子, 日浦美智代, 一之瀬孝恵, 高橋美与子「ものづくりの精神を伝える家庭基礎衣生活分野の授業: 染織の日本の技を生かした海を渡ったキモノから」『日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集』57(0), 23, 2014.
- 7) 柴静子「染織日本の伝統と文化を学ぶ教材としての明治・大正期の輸出用キモノについて」『日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集』57(0), 22, 2014.
- 8) 佐々木里紗, 仙波圭子「「着物」に親しむ授業の検討: 小紋の着装体験を取り入れて」『日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集』61(0), 73, 2018.
- 9) 長尾順子「家庭科教育における衣文化理解に関する授業方法の提案: きもののペーパーひな形を学習者にどのように作らせるか」『藤女子大学人間生活学部紀要』, (55), 23-30, 2017.
- 10) 文化庁「国指定文化財等データベース」<https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/maindetails.asp> (2018/8/1 アクセス)
- 11) 多田牧子監修『かわいい組ひもの教科書』, 誠文堂新光社, 2014. 36 頁より引用.

参考文献

- 松本包夫, 今永清二郎『日本の美術 308 組紐』, 至文堂, 1992.
- 遠藤てる編者他:『組みひも・作業療法への適用法——治療・援助・評価の手引き——』, 株式会社協同医書出版社, 2003.
- 多田牧子「組紐の歴史」『EXQUISITE』講談社 International, 98-106, 1988.
- 森俊夫, 伊藤実子, 岩佐美代子「平組紐の力学的性質と官能評価〔英文〕 Mechanical Characteristics and Sensory Evaluation of Flat Braids」『日本家政学会誌』, 44(8), p655-663, 1993.
- 菅沼晃次郎他『くみひも』, 民族文化研究所, 1969.
- 正倉院事務所編纂『正倉院の組紐』, 平凡社, 1973.
- 藤田昌三郎『組紐を設計する 設計の基本から中世組紐の解明まで』, 美術出版社, 1981.
- 文化服装学院編『服飾造形の基礎』, 文化出版局, 2009.
- 組紐・組物学会監修『組紐検定 3・4・5 級対応標準テキスト 組紐と組物 歴史・用途・制作方法・原材料』, 株式会社テキスト, 2011.
- 高橋ひとみ『結び大百科』, 株式会社ブティック社, 2012.
- 石井照子他『結ぶ・編む・組む・織る・繡う』, 建帛社, 2014.
- 多田牧子監修『かわいい組ひもの教科書』, 誠文堂新光社, 2014.
- 多田牧子『楽しい&美しい いちばんやさしい組ひも』, 日東書院, 2017.
- 多田牧子『うつくしい組ひもと小物レシピ』, 日本文芸社, 2017.

